

# AJSAA ペナルティ判定基準

## 1. 判定について

ペナルティの判定はコース委員が行います。ペナルティ一つにつき五秒がタイムに加算されるため、勝敗に大きく関わります。本判定基準を確認・理解し正確に判定ができるようにしてください。

## 2. ペナルティがあった場合

担当区域内でペナルティがあった場合は、黄旗を提示すると共に、ポスト長は競技長に報告してください。

報告内容は、

担当ポスト番号

ゼッケン番号

ペナルティ内容

です。その後、ポスト判定報告書にペナルティ内容を記入してください。

## 3. 判定基準

(パイロン)

特別規則に基づき、パイロンへの接触あるいは転倒に対しては、1個につき5秒のペナルティが科されます。受け持ち区域を監視し、パイロンへの接触の有無を判定してください。



- ・パイロンへの接触とは…

円錐状の部分への接触はもちろん、パイロン下部の四角形の部分(耳)をタイヤで踏んだ場合も含まれます。ただし、最終的な判定権は、当該エリアの担当ポストのコースオフィシャルにあります。

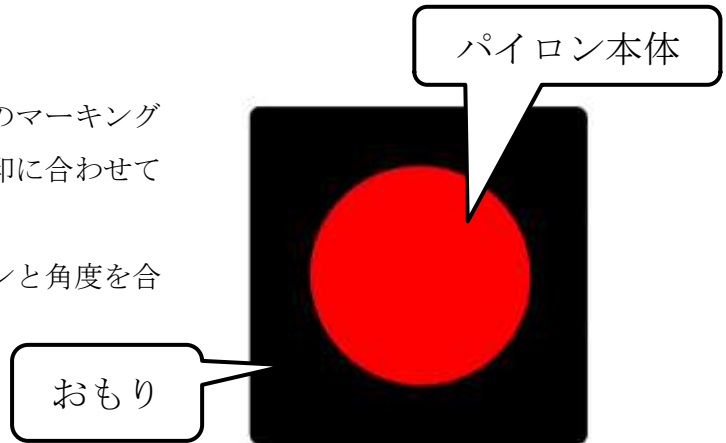
・パイロンの接触・転倒・移動があった場合は、パイロンの位置を修正する必要があります。再び競技車両が修正すべきパイロン付近を通過しないことを十分確認した上で、安全を確認し全速力で修正に向かってください。また、同じパイロンを二度通過するコースで一度目にパイロンが移動した場合、二度目に通過するときは元の位置を基準に走行します。判定も同様に元の位置を基準に行うので注意してください。

・パイロンタッチしたかの判定が疑わしい場合、本部に確認作業の旨を連絡し、修正時と同じ手順で確認を行ってください。結果としてパイロンタッチと認められない場合は、確認作業中も含めてパイロンには触らないでください。

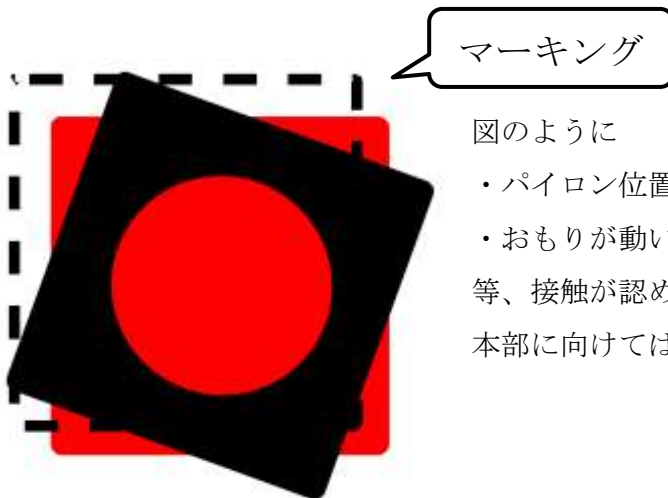
### 確認手順

パイロンの正確な位置はアスファルトのマーキングで確認します。路面に描かれた四角の印に合わせてパイロンを設置してください。

おもりはテープで固定するか、パイロンと角度を合わせます。



パイロンタッチタッチが疑われる場合は該当パイロンを上から見ます。



図のように

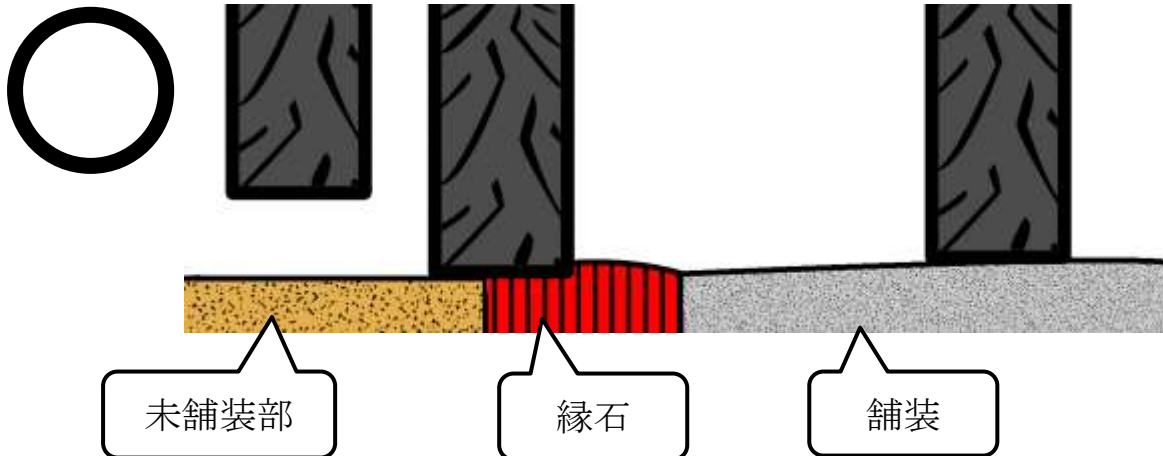
- ・パイロン位置がマーキングから動いている
- ・おもりが動いている

等、接触が認められた場合、パイロンを持ち上げ、本部に向けてはっきりと接触を示してください。

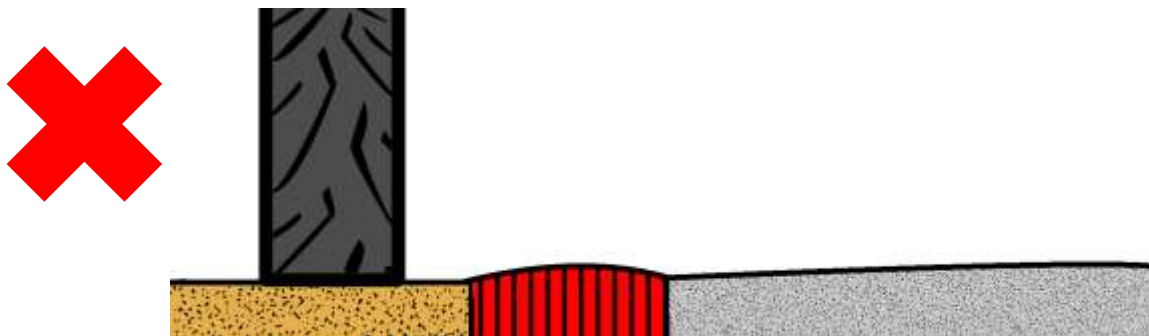
パイロンが動いていない、接触が認められない場合はパイロンには触らずに配置に戻ってください。

### (脱輪)

コース外に脱輪をした場合は、パイロンタッチと同等のペナルティ（1輪脱につき5秒のペナルティ）となります。判定基準としては、確実に脱輪したもののみをカウントして下さい。



図のように縁石に少しでもタイヤが乗っている状態、縁石から完全にはみ出しているが未舗装部に接地していない状態では脱輪となりません。



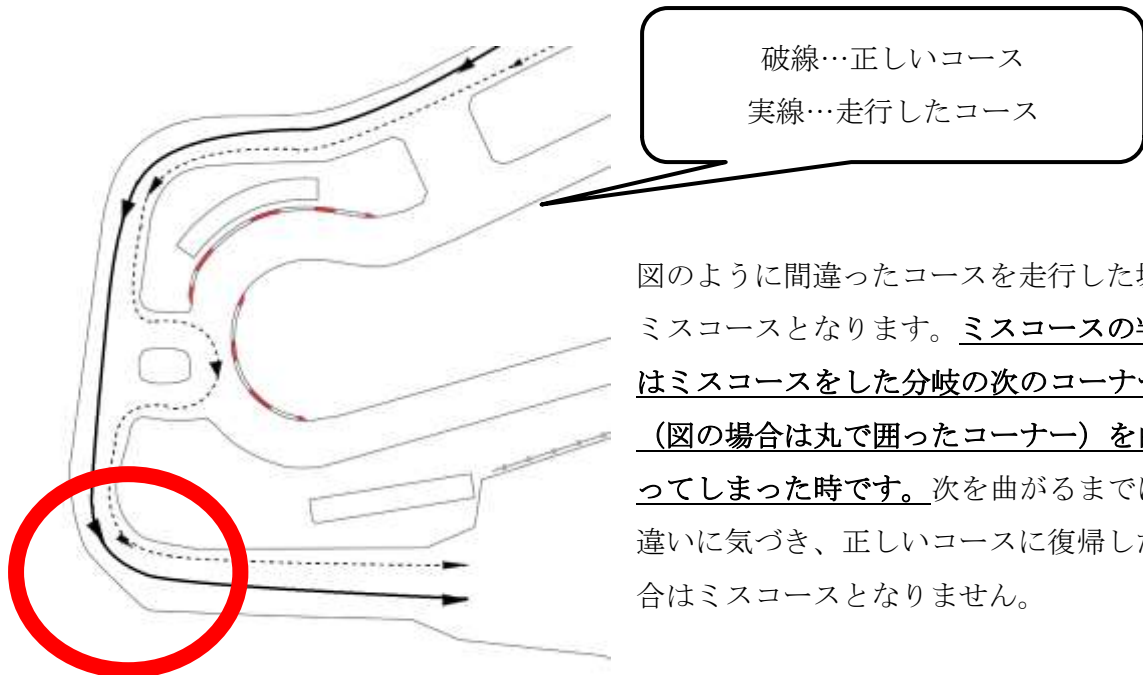
図のようにタイヤ全体がはみ出し、接地している場合のみ脱輪と判定します。

### (コースアウト)

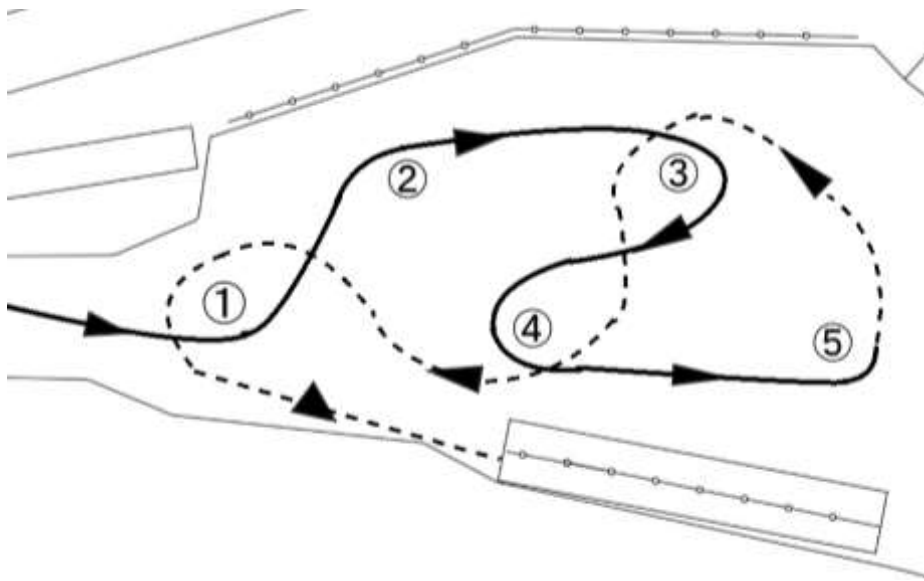
競技車両の4輪すべてがコースから同時に脱輪した場合はコースアウト扱いとし、当該走行を無効とします。黒旗を提示し、コースアウトの旨を本部に伝えた後、車両を速やかにゴールまで移動させてください。

### (ミスコース)

競技車両がミスコースした場合、黒旗を提示してください。



図のように間違ったコースを走行した場合ミスコースとなります。ミスコースの判定はミスコースをした分岐の次のコーナー（図の場合は丸で囲ったコーナー）を曲がってしまった時です。次を曲がるまでに間違いに気づき、正しいコースに復帰した場合はミスコースとなりません。



パイロン区間でも同様の判定基準です。特に二度通るパイロン（図では1,3,4番）に関して、一度目でパイロンに接触し位置が動くことがあります。パイロンが動いた場合は路面のマーキングの位置を基準に走行します。明らかにマーキングの位置とは異なる箇所を走行した場合はミスコースとなります。

また、パイロンを跳ね飛ばし、コースレイアウトを大幅に変形させたり、パイロンを車両下に挟み込んだ状態で走行し続けたりした場合はミスコースとします。旗は競技長より再度指示があるまで提示し続けてください。

またポスト長は、競技長に報告をするとともにポスト報告書に記入をしてください。